

第3回 市民動物園会議

会 議 録

第3回 市民動物園会議

- 1 日 時 : 平成20年3月1日(土) 13:00～
- 2 場 所 : 円山動物園内 動物園プラザ
- 3 出席者 委 員: 原田 昭、服部 信吾、井上 剛、鈴木 美佐子、
須藤 深雪、林 健嗣、森田 真未、原 はるみ
(欠席) いがらし ゆみこ

事務局: 環境局理事、円山動物園園長、種の保存担当部長、
経営管理課長、飼育展示課長 ほか

4 議 事

- (1) 円山動物園基本計画(案)の報告
- (2) 平成19年度報告
 - ー 入園状況
 - ー 寄付受理状況(アニマルファミリー、その他寄付)
 - ー 歳入・歳出見込み
- (3) 平成20年度予算の概要
 - ー 歳入・歳出予算(要求内容)
- (4) 委員からの提案・意見交換
- (5) その他

1. 開 会

○**金澤園長** 定刻となりましたので、第3回市民動物園会議を開催させていただきたいと思いをします。

原田委員長、よろしくお願ひいたします。

2. 議 事

○**原田委員長** それでは、第3回市民動物園会議をこれから開きたいと思いをします。

本日が、今年度の最後ということになりますか。

○**金澤園長** そうです。

○**原田委員長** いろいろとこの1年どのように進めてきたか、それから基本計画の案ができたようでございますので、その報告、それから平成19年度の報告、それから20年度の予算の概要をご説明いただいたところで、それぞれの委員からのご提案、ご意見をいただきたいと思いをします。

それでは、まず最初に、円山動物園基本計画（案）の報告ということで、動物園側からお願ひします。

○**金澤園長** まず、基本計画の報告をさせていただきます前に、出席状況を報告させていただきます。五十嵐委員は所用により欠席されておりますので、過半数の方がご出席されておりますことを会議は成立しております。

それから、資料の確認ですが、本日の資料は番号1、2、3-1から4、それから4-1から2となっております。各委員には事前に送付してございますが、本日、資料2と3につきましては新しいデータに差し換えてございますので、本日配付の資料を利用させていただきますと思いをします。

お手持ちなどで不足がありましたら、事務局の方にご連絡いただきたいと思いをします。

それでは、基本計画（案）のご報告でございますが、昨年11月の第2回会議におきまして、基本計画の草案を報告させていただきました。このときの議論も踏まえまして、今回、計画案を作成し、報告させていただきたいと思いをします。

先に、この基本計画の今後の事務手続のお話をさせていただきますと、この案をもちまして動物園としての案としまして、市役所内の意思を固め、最終的には今月末までに市長決裁を経まして、札幌市としての円山動物園基本計画にしたいと考えております。その後、印刷等も経た上で市民に公表することになります。

それでは、早速ですが、資料2の札幌市円山動物園基本計画（案）の説明をさせていただきますと思いをします。

各委員には事前に配付しておりまして、一通りお目を通していただけたものと思いをしますので、簡潔に説明させていただきたいと思いをします。

まず、一部追加した部分、それから文言整理、それからページ番号等の整理を行った関係もありまして、今回、丸々新しいものに差しかえさせていただきました。

大きく修正したところは、まず、3分冊になっていますが、第1編の表紙の裏側にある基本計画の全体像でございます。次のページ以降、基本計画の策定にあたってという部分、さらに目次にページを記入したことが大きな点でございます。このほかに、本文の中では87ページに、後ろの3分冊目になりますが、87ページの下の方の(21)に飼育動物の考え方というものがございます。そのうち、下から3行のなお書き以下を追加してございます。

それから、91ページの園内緑化整備というところが、事前に送らせていただいたときには全く抜けておりましたので、つけ加えてございます。さらに、第3編ですが、後半の方にイメージ図を追加しております。修正した部分や追加した部分は以上でございます。

計画について説明させていただきますが、前回も申し上げましたように、この基本計画は基本構想に基づく実施計画となるもので、おおむね10年間の長期計画となっております。ただし、開園60周年を迎えます2011年度、平成23年度までは集中取り組み期間と位置づけまして、市のまちづくり計画と整合性を図りながら計画をつくって記述してございます。24年度以降は基本計画を見直ししたときに具体的にしていく考え方でございます。それから、ご存じと思いますが、昨今のこの厳しい財政状況、それから原油の高騰、地球温暖化の影響などさまざまな外的要因がございまして、これによって常にこの実施計画、基本計画なり基本行動の実現の可能性の検証とか、さらに毎年の財政状況、それから動物園の収入状況に応じ柔軟に計画年次を見直すことも視野に入れた計画にしてございます。

主に、表紙から3枚目の基本計画の構成についてのところでお話をさせていただきたいと思っております。

今回の基本計画の構想は、円山動物園の役割と行動指針、それから経営戦略とソフト事業、さらに施設整備と動物管理の3編、3部構成にしてございます。

第1編の円山動物園の役割と行動指針ですが、この部分では、基本構想に定めた円山動物園の役割、それから三つの柱に基づき計画事業を整理したもの、一般的に動物園が持つ機能の中から、市民にとってどのような役割を持つ動物園が望ましいかを考え、円山動物園の存在意義を高めるための事業、さらには円山動物園らしさ強調、それから、ほかの動物園との差別化を図る事業を盛り込んで整理してございます。

それから、第2編の経営とソフトのところでは、円山動物園が将来ともに持続するための長期の経営戦略と集客事業を整理してございます。ここでは、基本構想にもありますが、平成23年、2011年までに平成17年度と比較して入園者数を倍増する、それから、それに伴って収入の倍増を図るということになってございます。そして、支出を30%カットし、収支バランスを保つ、そして持続可能な経営体制をつくるということになっておりますので、そういった関係の事業が盛り込まれております。

さらに、第3編の施設整備と動物管理のところでは、第1編、2編で打ち出している施策をハード面から支える動物舎や来園者サービスを考えた施設全般についての事業を盛り

込んでございます。それから、飼育展示方法や動物舎の整備は、短期的に大規模な投資は現在の札幌市の財政事情から考えますと、そういった視点からも困難なことがございますので、当面の全体配置計画をお示しし、今後、動物舎ごとに完成予想図を作成することにしております。ここでは、動物の飼育環境基本構想に基づき、人間中心の考え方から動物を中心にする動物福祉とか環境エンリッチメントの考え方も十分に踏まえたものにしていくことにしてございます。

そういうことで全体が構成されておりますが、目次をごらんいただきたいと思っております。

目次のところに、全体の項目がすべて載っております。まず、第1編の円山動物園の役割と行動指針のところでは、全部で37項目、第2編では21項目、第3編も21項目ありまして、全部を合わせて79項目でございます。現時点で完成に至っていないまでも、全項目で既に検討に着手し、進められております。そういった意味では、全部の事業に何らかの形で手をつけましたということになります。そして、全項目ともに、それ以降にあります1枚ずつの個別表にしておりまして、今後の進行管理もこの個別表で管理していくことにしようと、我々事務局では考えています。

きょうは、特に第3編のところでは、実は、前回、第1編と2編は、まえがきのところを除いてほとんどお出ししてございます。文言の整理だけで変わっておりませんので、きょうは第3編を中心にお話をさせていただきたいと思っております。

第3編は、前回では全体の配置計画図だけを添付していたのですが、3カ月もたちますと大分進みまして、少しずつ絵が出てきました。そんなところで、きょうは111ページ、ちょうどページ数が切れるぐらいのところから108ページまではページ番号を打っていて、109、110、111というふうになっております。その辺はページ数が抜けておりますが、こちらの画面を見ながらお話をさせていただきたいと思っております。

これは、表紙の裏についていました基本計画の計画体系です。体系といいますと、普通、ネットワーク風につくられているのですが、今回、動物園が79項目つくったものは、すべて人と動物と環境の絆をつくる動物園、一つ一つの事業がすべて基本理念に基づいて、これを実現しようという構成になっておりますので、つくりとしては珍しいのですけれども、こういう円形のものになっております。

黄色い色がついておりますのは、円山動物園を際立たせるための計画事業、「わたしの動物園」という視点からの行動、それから生物多様性の確保に向けた行動、自然豊かな円山エリアの中核施設としての行動ということになります。それから、青いところは、動物園そのものの存在意識を高める事業というくりができます。基本構想の中では役割という表現をしておりますが、札幌市の環境教育の拠点、多様なメッセージを発信するメディア、それから北海道の生物多様性確保の基地という形になります。白いところは、円山動物園としては、動物園であり、一方では集客施設といえますか観光施設の意味も持ちますので、そういった事業で考えたところです。これは、事業展開を考えるソフトとか、持続可能な経営の考え方、それから展示施設の考え方といったくりです。大きくは三つで構

成されております。79の項目がすべてこの中に入っているのですが、一つ一つの事業が、例えば「わたしの動物園」という視点の行動であっても、実は、ほかの役割ともつながっているものですから、上にうまくかぶせるためにこういう丸型の連携という表現をさせていただきました。全体像としては、変わった絵になったかなと思っています。これが、我々が今回つくった基本計画の構造です。

これは、皆さんのお手元には白黒になっておりますが、カラーで表示してございます。これは、全体施設の配置をイメージしたものでございます。ただ、今は、とにかくイメージなので、基本構想に合ったイメージ図からちょっと進んで、動物舎そのものが少しずつ出てきています。この中には、将来こうしたいという思いを描く施設の配置もイメージとして取り入れます。例えば、この矢印を打ったところがアフリカ、この隣がアジアということになります。中心部にアジア・アフリカゾーンがあって、この上の方は北海道・北方圏、そして真ん中のところに類人猿とか熱帯鳥類とか爬虫類というイメージです。そして、ここの部分がふれあい、そして、この沢のところに自然体験型のゾーンが入っている、そういった基本構想のイメージをそのまま整理しております。

これは、今の施設全体を年度割りで整備するとどうなるかというイメージです。例えば、19年はここに三つございますが、エゾシカとかオオカミですね。それから、ここの類人猿館と、子ども動物園ですね。それから、20年度、来年度については、後ほど予算の話をさせていただきますけれども、この中に自然体験ゾーンとか野生復帰のところで集中的に取り組みたいと考えております。

そして、21年度は、新爬虫類館とか、アジアゾーンの一部になりますが、アジア館の建設に入ればと思っております。下の方は、便益施設ということでトイレなどの改修になります。

22年度も、アジアゾーンが2カ年工事になりますので、そういった計画を持っております。

それから、23年度は、60周年ということで色がついているところですが、ここは60周年になります。ただ、ここのところでは、前の年に新まちづくり計画があって、22年には見直しの時期に来ますので、24年度以降のところをもう少し具体的にしていけるかなと思っております。

そういう整備計画をイメージしております。

その中で、今回、20年度に予定している部分ですが、ビオトープセンターです。まず、ビオトープの建設、野生復帰の自然体験の中のビオトープセンターの建設です。これは沢の中ですが、全体のイメージなので、このままになるかどうかはまだわかりません。そして、ビオトープの中に、余り大きくないのですが、100平米程度のセンターを設けます。

それから、これは新爬虫類館です。これは、蛇の格好をしています。蛇そのものにはできないので、真っすぐになっています。昔のかまぼこ兵舎のイメージかもしれません。そして、こういうふうに真っすぐ陳列するような仕掛けを考えています。ここがプールにな

りますので、爬虫類の中で水を使う大きな動物、例えばワニなどのイメージだけはしています。

これはアジアゾーンです。何となくS型にしました。札幌をイメージするSにしてみようかと思ってこうしました。これは表からも中からも出入りできるように、中も全部見ることができるかなと思っています。

これはアフリカゾーンです。アフリカ系の動物たちが入りますので、ここは暖房を使うこととなります。カバも、プールを横から見るができるかなと考えています。ただ、あくまでも今のところはイメージ図なので、そのままできるというのは、これから整理をしていく中で見ていくことができると思っています。

こういうふうに、少しずつ変えていく形で、先行取り組み期間とか集中取り組み期間も経て60周年を迎えられるようにしたいと考えています。

あとは、先ほど申し上げました財政状況、社会情勢、動物の導入、そんなことなどによりまして、今イメージしている着手の順番が変更になる可能性もあります。また、その動物が入ることによって施設の配置計画も変更になるということをご理解いただきたいと思います。

以上が、資料1に基づく説明でございます。

少し抜けていました。ビオトープがあります。

これも、ビオトープのところ、沢沿いになります。これもまだイメージ図なのですが、円山川があって、ちょうどこの辺にセンターハウスを置くイメージです。科学館がこのあたりでちょうど真裏です。そして、後ほど説明しますが野生復帰ゾーン、オオワシ、猛禽類の関係です。これは、予算のときにもう一度お話しさせていただきます。

以上が、今のところ計画している予定です。

資料1の説明は以上でございます。

○原田委員長 どういうふうに進めましょうか。これについて、まずご意見をいただいた方がよろしいでしょうか。

○金澤園長 最後にまとめましょうか。

○原田委員長 今、説明をお聞きしたばかりなので、何かご質問等あればこの場でお聞きするのがいいと思いますけれども、委員の先生方、いかがでしょうか。

私の方からお聞きしたいのですが、施設整備の絵が書いてある部分、このスケジュール表の中に余りはっきり書かれていないような感じがするのですが、書かれているのですか。例えば、自然体験ゾーンというのはどの辺で……。

○金澤園長 自然体験ゾーンは20年度のところに出ております。

○原田委員長 自然体験ゾーンがありますね。

○金澤園長 表としてはちょっと小さいですが。

○原田委員長 アフリカ館はどこにあるのですか。

○金澤園長 アフリカは、この辺から着手ができるかなと考えています。

○原田委員長 これですか。

ちょっと先になるということですね。

○金澤園長 そうです。

どうしても、アフリカ館は、今で言う熱帯動物観を二つに割る作業があるのです。

○原田委員長 後ろの方から行ってしまいましたけれども、これはアジア館ですか。アジア館というのは、このスケジュール表で言うと……。

○金澤園長 アジアは、ちょうどここが建設予定なのですが、20年度には準備を開始しようと考えています。内部的な検討から入っていかなければなりません。

○原田委員長 23年度までに完成という予定ですね。

○金澤園長 そうです。まだ全然設計に入れられない状態ですから、ちょっと時間はかかると思います。

○原田委員長 その前の爬虫類館は……。

○金澤園長 爬虫類館は、21年度に建設をしますので、20年ぐらいからは準備が始まります。

○原田委員長 ビオトープセンターというのは、自然体験ゾーンの中に入っているのですか。

○金澤園長 はい。これは20年度です。

○原田委員長 20年度に検討も含めて着手をするというのは……。

○金澤園長 20年度は、予算のところでまた触れますが、一応、建設そのものも含まれております。

○原田委員長 自然体験ゾーン新設と、検討を開始するのが野生復帰ゾーンの新設と。それから、検討期間を含めて新爬虫類館建設ですね。それから、アジア館建設の検討期間を含めてアジア館建設を行うということですね。20年度に検討ですね。

20年度に向けては、そういうことですね。

○金澤園長 では、20年度のお話を先にさせていただきます。

皆さんのお手本に資料4-2の局別施策の概要というものがありますが、その表紙の裏側に69ページ、70ページとあります。

ここで来年度の予算のお話をさせていただきますと、69ページの方は、予算の概要ということで、歳入は1億9,000万円ぐらいで前年度とほぼ同じなのですが、歳出としましては8億5,000万円となります。ただ、その中の経常支出としては4億7,000万円、整備費ということでは3億7,000万円ぐらいございます。全体を合わせて8億5,000万円ということで、前年の約8.5%増となっております。

内訳ですが、動物園運営管理費は4億6,900万円ございますが、これは円山動物園の飼育展示動物にかかわる経費と施設の維持管理、教育普及啓発にかかわる経費でございます。

20年度は、特に日本とインドネシア共和国との国交樹立50周年の記念の年になりま

すので、動物園にはインドネシアにすんでいる動物が結構多いのですが、代表的なのはオランウータンとかマレーグマなどがいまして、こういった動物を多数、飼育・展示しておりますので、特別展としてインドネシアの野生動物の現状とか自然保護の必要性、さらにはインドネシアの風俗、文化を紹介するインドネシア展を開催したいと思っております。

ここには、インドネシア大使館、札幌には名誉領事もおられますので名誉領事館、それからインドネシアからたくさんの留学生が北大などに来ていますので、そういう方々と共同で開催する予定で800万円を予定してございます。

それから、次の野生動物復元事業費は、基本構想の中にもございましたが、生物多様性の確保に向けた行動の一つとして、札幌や円山周辺に生息していた、あるいは過去に生息していた動物を繁殖して自然界に復帰させようという取り組みでございます。当面のプログラムとしましては、オオワシ、シマフクロウといった猛禽類、それからオオムラサキとかニホンザリガニといった昆虫系の小動物の復元にも取り組む予定でございます。中でも、オオワシは円山で繁殖した個体を生息地のロシアから放鳥するために、日本とロシアの2国間による放鳥に関する会議を今回開催しようと考えていまして、それがここに載っております280万円という数字でございます。また、7月には洞爺湖でサミットもございまして、これからの調整でできるかどうかまだわかりませんが、円山が野生保護に取り組む姿勢を世界にアピールする絶好の機会なので、サミットに合わせて環境シンポジウムのような国際シンポジウムを開催できないものかと思っております。

それから、70ページと書いてありますが、動物園リスタート事業です。まさに今、年割の話があったところですが、ここでは、野生復元、基本構想に基づく動物園の再整備事業ということで、20年度には野生復帰ゾーンの整備をやると思っています。これが、先ほど見ていただいた部分で、野生復帰ゾーン整備の中の繁殖用ケージ、訓練用ケージ、飛行訓練用のケージを建設するものです。これは、オオワシとかシマフクロウをイメージしている大きなものです。今回、色を塗ってあるところだけが20年度の予算ということです。それ以外のところで、何となく線がついているところは、これからやればいいなと思っています。そういうふうに整備を進めていこうと思っています。

それから、自然体験ゾーンというビオトープのところですが、ビオトープをつくります。それから、園では、ご存じのように、園内の東側に円山川がございまして、この周辺を利用して整備を行います。

ここから徐々に、これら二つが20年度にスタートして、今後、先ほどあったように少しずつ先に進めていきたいと思っております。

このリスタート事業の中に熱帯植物館解体費というものがございまして。これは、新爬虫類館を建設する前準備として、先に解体をしていこうと考えています。ただ、後ほどの話になりますが、暖房費の節約になります。ここは熱帯植物館ですからしっかり暖房されていますので、解体すると、暖房費の節約には大きく寄与できるかなと思っております。

以上、来年度の主な事業とあわせて説明させていただきました。

○原田委員長 ありがとうございます。

今の基本計画の内容、特に第3編の施設整備と動物管理というところのご説明をお聞きいたしました。何か質問はございますか。

○服部副委員長 ご質問させていただきます。

基本構想のタイムテーブルがございますけれども、この中の20ページにある障がい者福祉へのメッセージを発信するイベント等々の基本計画が記載されています。バリアフリーという項目がここにあるのですけれども、このバリアフリーに関してのタイムテーブルはどのように描かれているのかお聞かせいただきたいと思います。また、これは見えにくいので、もう少し具体的に明記した方がいいと思います。何をしようとしているのかが見えません。

○金澤園長 ご存じのとおり、バリアフリーというのは、ユニバーサルデザインということでもいろいろやっていかなければならないので、施設の整備に合わせてやっていこうと思っています。今、全体の施設がそれぞれありますが、計画ではここが一番下にあるように、便益施設というか、バリアフリーということで建てています。ですから、施設は一つ一つバリアフリーにしていくのですが、後で園路全体をしなければなりません。勾配までは直せないにしても、どう使うかというところは計画しているので、そういう中で、今後、取り組もうと考えています。具体的に、今、これをこうしますというのはないのですが、一つ一つの施設の中ではそれを基本理念にしっかり入れてやっていこうと考えています。

○服部副委員長 20ページには、参考意見を収集するとともにという文言が出ていますが、参考意見を収集するというのは、いつのレベルからのスタートを考えて組み入れているのでしょうか。

○金澤園長 これは、既に始めています。平成18年度、19年度ということで、18年度から始めたのですが、実は障がい者から意見があって、今、夜の動物園をやっていますけれども、障がい者が健常者と一緒のときというのは、皆さん譲ってはくれるんだけど、ゆっくり見られないのだという意見を聞いたものですから、夜の動物園を一般公開する前の週とか前の日に障がい者の方だけを招待している日があります。そのときに、ゆっくり見て下さいねということをやっています。そういった中で意見をいただきました。そのときは、障害者福祉協会とか家族会などと一緒になってやっていますし、ボランティアにも協力してもらおうというやり方をしています、その中でご意見をいただいています。ですから、実際に現地に来ていただいて、見た上でのご意見です。

○服部副委員長 そういう意味では、この文言が、参考意見を収集している状況の中で、今後、参考意見を収集するというふうに関連した情報にとらえられるのではないのでしょうか。

○金澤園長 いえ、これからはずっと聞いていきます。

○服部副議長 継続してやっていく考え方があるということですね。わかりました。

○原田委員長 ほかにご意見、ご質問等はございませんか。

それでは、まず一つ目の円山動物園基本計画（案）の報告について、特にきょうは第3編ということでしたが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○原田委員長 では、次に参りたいと思います。

平成19年度報告について、よろしくお願ひします。

○金澤園長 19年度は、資料3に基づいてお話をさせていただきたいと思います。資料3-4までございます。

まず、資料3-1は入園者の推移でございます。これが、これから議論して経営していく中で一番大きなポイントになっていくと思います。

左側の表で見ていただきたいのですが、19年度は2月末現在で58万人となっております。これは、前年の同期比で3%マイナスとなっております。特に、1月、2月のところですが、前年に比較しまして1.2倍なり1.5倍ということがございます。というのは、前回も申し上げてございますが、どうしても冬場は動物園が閉園しているのではないかとおわれている節がございますので、18年度と19年度の2回、広報さっぽろの中で無料クーポン券をつけてPRをしながらやっています。そのほかに、冬のイベントもしっかり組み込んで、特に森田さんに協力していただいて、力仕事をさせていただいて、氷の滑り台をつくりましたところ、結構のお客さんに来ていただけました。そして、原さんはそのときにボランティアとして雪だるまをお客さん方と一緒にやってつくっていただきました。そんな楽しみながらのイベントも加えながらやっております。そのため、前年比1.2倍から1.5倍と健闘したところかと思ひます。

3月には、スネークアート展ということで、これも市民参加型になりますが、昨年1万6,000人ですから、もう少し努力すると2万人くらいは目指せるかなと思ひます。そうすると、前年が61万1,000人ですが、何とか60万人くらいには到達できるかなと、大体横並びぐらいまではできるのではないかと考えております。

それから、資料3-2ですが、お手元にありますアニマルファミリーの件でございます。募集中というメールも一緒に入れてございますが、2月から5種類の動物で募集開始しました。1回目、2回目とこの会場の中でもご議論いただいておりますが、アニマルファミリーの1カ月の会員の申し込み状況を報告させていただきたいと思ひます。1カ月で71件、93口の申し込みがございました。内訳としましては、大人35件、子ども18件、法人18件、それから、所在地別では、当然、札幌市内が多くて56件、道内が9件、道外が8件となっております。

動物別では、この表の左の一番上になりますが、昨年11月に赤ちゃんが生まれ、親子の同居訓練をやっている最中です。きのう、ライオンの赤ちゃんのウィズユーカードが1日で完売したという状況ですが、ただいま人気が出てきておりますライオンのリッキーが33口です。それから、昨年末に出産に挑戦しまして、残念ながら出産に至らなかったホッキョクグマのララが18口です。それから、この前の2月26日に2歳の誕生日を迎え

たチンパンジーのレディが16口です。そして、ファンは多いのですが、意外と伸びなかったかなと思ったのがレッサーパンダのココの14口です。オランウータンの弟路郎が12口となっております。金額では、総額で51万9,000円となっておりますので、最近、マスコミにもだんだんと取り上げられてきましたし、我々もいろいろな機会にPRしておりますので、これから応募者もふえてくるかなと思って期待しております。委員の皆さんも、知人、友人にPRしていただいて、またご自身が加入していただくのもいいかなと思いますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。この中で特徴的なところは、1人で全口の一つずつ入ったという方もおります。一つではなくて、みんな好きだよという方もおります。

それから資、料3-3は寄附の状況でございます。前回の時点、3カ月前ですが、43件の360万円ということで報告させていただきました。2月末では、一番上の右端に書いてありますが、22件、238万円ふえまして、合計で65件598万円の寄附をちょうだいしております。おかげさまで、市民の皆様にも少しずつご理解をいただき、徐々にふえてきております。その中でも、公開に同意されております方が、ここに名前が載っている方々でございます。もう少し頑張っていくと、だんだんアニマルファミリーと同じように少しずつ浸透させていければと思っております。

それから、資料3-4は、基本構想の中でも17年度と比較してというところですが、17年度から19年度までの歳入歳出予算の推移でございます。

この資料は、今申し上げました基本構想で60周年の23年度までに平成17年と比較して、経常収入で倍、経常支出で30%カットが盛り込まれ、またそれを目指しておりますから、その検証の意味で今回提出させていただきます。19年度の決算見込みとの比較になりますが、歳入では合計で26%伸びております。その中でも入園料が一番大きな金額を占めておりますが、正直に言って、入園者の伸び悩みにより、ほぼ前年並みの1億6,000万円と見込まれます。これは、17年度と比較しましても21%の増となっております。

それから、売店使用料というものがございますが、これは、売店等が動物園内で営業しているときに、土地を貸しておりますが、その地代が約2,100万円ということで、17年度と比較して25%の伸びとなっております。

それから、寄附金収入は、19年度に新たに新設したこともあって比較になりませんが、この分は690万円ぐらい見込んでいます。先ほど590万円と言いましたけれども、あと1カ月に100万円ぐらいは何とか頑張りたいと思っております。

それから、収入のところ動物園収入等とございますが、これは売店の光熱水費なのです。これは役所の仕組みなのでどうしようもないのですが、親メーターを動物園で持っていて、個々は子メーターなのです。ですから、動物園が1回払って、そして子メーターに合わせてこちらが収入として受ける、収入・支出のダブルで計上する仕組みになっております。これは、売店側等の節約もあって、マイナス4%となっております。いずれにし

ましても、ここは入園者の数が絶対に影響してはます。とにかく、基本構想の中では100万人を目指しておりますので、これからもう少し頑張っていきたいと思っております。

それから、下段の方ですが、歳出でございます。

これは、19年度の決算は合計で4億9,000万ぐらいを見込んでおりますが、17年度に比較しますと4%の伸びになります。ただ、これは経常収支とか資本的支出という見方をするともう少し状況が変わりますが、今、一たんはこういった整理をさせていただいております。あとは、次の20年度に入って決算が出た段階ではきちんとお話をさせていただきたいと思っております。

個別に見ますと、上下水道がマイナス26%ということで、すごく減少しております。これは、漏水防止と節約に取り組んだ結果です。それから、えさ代も19%落ちております。これは、仕入れ先を変更したり、同じ商品でも安いものを探して、それから、まとめて集中的に発注するとコストが安くなるので、そういった経費も見ながら、企業努力というか、そういう方法で19%減少しました。それから、電気代も、いろいろ節減した結果、12%のマイナスになっております。

一方、燃料代だけは、ここにありますように、33%伸びている状況です。ご存じのとおり、昨今の原油高によりまして、節約に取り組んでいるのですが、残念ながら2,000万円ぐらい伸びてございます。

また、施設改修の方では、長年、補修を行っていないということもあって、昨年18年度も800万円ですが、19年度は決算で1,400万円となっています。これは、少し積極的に施設改修をやっていかなければ、お客さんへのサービスの点もあるし、いろいろ節約するときにお金をかけていかなければいけない点もあるので、そういった意味でふえております。ただ、17年度と比較しますと6倍ぐらいになっておりますので、ここはこれから下げていかなければならないと考えております。

それから、一番下のところに駐車場会計がございまして。これは、特別会計で別枠なのですが、歳出では17年度と比較しますとマイナス7%になってございます。そして、収入の方は、ここの中に表示してございませんが、17年度の時点で駐車場使用料が7,100万円くらいだったのですが、19年度は8,300万円まで伸ばしてございます。15%ぐらいふえてはございますが、そういうふうになんか少しずつ改善しながら、人もふえると駐車場も伸びるといふ仕掛けもございまして、これからまだ努力していかなければならないと考えております。

簡単ですが、以上が19年度にかかわる事業の内容でございます。

以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

ただいま、入園者の状況、それから寄附の受理状況、歳入歳出の見込額の説明がございましたが、何かご質問はございますでしょうか。

○金澤園長 燃料の話でございますが、動物園で一番多いのはA重油なのです。全体の燃

料費の8から9割はそれなのですが、17年度の1年間の平均単価が55円なのですが、19年度は67円ということで22%の伸びです。灯油などだともっと上がると思いますが、そういう意味ではA重油は値上げ幅が低いということにはなりますが、22%も伸びてしまうと、33%伸びているうちの22%が単価なのです。これは、我々では努力のしようがないと言ったら言葉が悪いですけれども、ここだけは手が出せない範囲なので、はっきり言ってつらいですね。

燃料については頑張っていると思いますが、ことしのように寒いと燃料費はかかるのです。獣舎の温度が設定されているので、表が寒い分、燃料も多めに消費することになります。

○原田委員長 ご質問はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○原田委員長 それでは、また後ほどご意見、ご提案等をいただきたいと思います。

それでは、3番目の項目に参りたいと思いますが、平成20年度予算の概要についてです。先ほど一部ご説明はいただきましたけれども、よろしくお願ひします。

○金澤園長 そうですね。20年度の予算はほとんどお話ししたのですが、資料4-2の中の一番最後に駐車場会計というものがあると思います。この説明はしてございませんので、中身をお話しさせていただきたいと思います。下に118と書いてあるものです。

駐車場会計というのは、札幌市では駅の北口と円山公園にある駐車場の2カ所が駐車場会計の中に入っているのですが、私どもが所管しているのが円山公園の駐車場ということになります。ここにかかるお金が大体1億ぐらいでして、駐車場の管理費は約3,000万円なのですが、これは駐車場の委託をしているお金でございます。下の方の7,400万円というのは公債費、あの駐車場をつくる時に市債を出してやっておりますので、その借金返済ということになります。これが7,400万円で、毎年かかるお金です。実際は、平成で言うと24年くらいまでかかるのです。そこまでいかないと借金が返し終わらないという仕組みになってございます。ただ、駐車場の収入は、先ほど申し上げましたが、毎年8,300万円ぐらいありますので、残りの足りないところは、北口が少しもうかっているんで、そこから補てんをしています。ある意味では借金を借金でやっているという状態でございます。ただ、少しずつ使用台数がふえていっていますから、もう少し頑張っていけば借金を返す部分も出てくると思っております。

先ほどの説明で抜けていたのはここぐらいです。

なお、資料4-1の説明を省略しましたが、これは札幌市が一般の市民向けに出している資料でございます。つくりは変えておりますが、中はほとんど同じになっております。

以上で、予算の話の説明を終わらせていただきたいと思ひます。

○原田委員長 ただいま、駐車場の会計についての説明と、この資料について説明がありました。これは、動物と環境の絆を目指しますという部分ですね。

○金澤園長 市民の方にお見せするときに、ちょっとつくりを変えて……。

○原田委員長 市民向けには、このような形なのですね。

○**金澤園長** 一応、札幌市のまちづくり計画なので、そういった中に合わせる形にしています。

○**原田委員長** ただいまの件につきまして、ご意見、ご質問はございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○**原田委員長** それでは、きょうの資料についてはほぼご説明をいただきましたが、この全体、あるいは基本計画について、前回から基本計画についてはいろいろご説明いただいているところがございますけれども、一応、きょうでそのすべてについてのご説明をいただいたということになります。このようなことで、札幌市円山動物園基本計画の案が構成されたわけがございますが、全体について結構でございますので、ご意見あるいはご提案等をいただきたいと思います。

いかがでしょうか。

基本構想の取りまとめといたしますか、リスタート委員会の取りまとめをしたものとしたしましては、基本構想の基本的な構想内容が非常に細かく、全部で79項目ですね、非常に細かく一つ一つ解説を入れて、現在、既に手をつけているというご報告をいただきました。そういう意味では、この基本計画はその構想にのっとって着実に進んでいる、それから、これから進み得るという展望が含まれていると思います。

私が特に申し上げたい点は、マスタープラン、あるいはスケジュールというところが最も重要なところではないかと思えます。最も重要といたしますのは、これから具体的に形になって見える、その骨子がここに書かれていると思うのです。この19年度にいろいろと着手されている内容が記載されておりますけれども、例えば、エゾシカ、オオカミの獣舎の建設、それから、現在工事が盛んに行われておりますオランウータン舎、これは3月中にでき上がるということですね。それから、解体や改修の工事が現在進められているところがございますが、このマスタープランのところ、獣舎計画なり、先ほどもご質問がありました園内のユニバーサルデザインがどのように進められていくのかということについて、ルールのようなものがつくられなければいけないと思います。その場、その場で、この獣舎についてはこんな案でいきます、Bの獣舎についてはこんな案でいきますというものを一つ一つ見せられていっても、基本的に円山動物園がこれから動物にとっての環境エンリッチメントをどのように進めようとしているのかという仕組みが見えないので、まあ、それでいいんじゃないのかという形で行ってしまいそうな不安を持っているのです。

そういう意味で、今年度、基本計画の中ではこのようなスケジュールで進めていきますという提案はきちんとされていると思えますけれども、そこでの円山動物園らしさ、この中には円山メソッドという言葉もつくられておりますように、その方法論、あるいは、ほかの動物園と比較してここが特徴的なんだというところのルールづくりのようなものが、施設個々のものになってしまうのかなという感じがするのです。内部的にはいろいろディスカッションされていることとは思いますが、こういうルールを進めるということが明記されていると、後々、いろいろ評価もしやすいのではないかと私は考えてい

るところでございます。

このデザインのとおりに進むとは思いませんけれども、一体何をかなめとして、軸としてこれからの環境づくりが進められるのかというあたりが守られていかなければいけないと考えております。

それから、もう一つ言いますと、経営、マネジメントについてです。いろいろと環境の変動があって、なかなか思いどおりに進まないところで苦しんでいるのかなというのをありありと感じるのですけれども、私は一方で、今アニマルファミリーを募集中なわけですが、この辺の見通しをどれくらいのスケールで考えられているのか。

まずは100ぐらい行くかなというのは読めるのですけれども、その後、どんなふうにいけるのだろうかというあたりはどのようにお考えか、ご質問をしたいと思います。

○金澤園長 なかなか厳しい質問です。

実は、前回もこれに相当はっばがかかっているのです。1万人を目指せとか、市民の1割は入れろとか、大分はっばがかかっていました。ほかの動物園のお話をしますと、大体四、五百なのですというお話もさせていただきました。我々も、スタートとして100口ぐらい入ってきているわけですから、大分いいかなと思っています。今は、いいことに、いろいろな団体等があって、そういったところはいろいろなつながりがあるものですから、今、これがたくさん出している最中なのです。ですから、これから少しふえていくかなとは思っています。

あとは、動物園側がこのファミリーにどういう情報の提供をできるか、ソフトでお返しできるか、それがしっかり見えると、もっと形が変わるのかなと思っています。そこは、これからしっかり作り込みをして、これは4月から正式にスタートになりますので、5種類で実験的にやってみて、何が問題かということをしちんと洗うと、少し反応が変わるのかなと思っています。

前回もコンサドーレのだれかを連れてきたらという話もありましたけれども、今はじわとやっていくという取り組みをして、少しずつふやしていく方がまずいいかなと考えています。企業については、3口3万円以上になると、印刷物などに動物園を応援していますと表示できるのですが、その話をすると、企業の方もそれはいいよねと言っているのです、少しずつ広げていけるのではないかと考えています。ですから、今の時点で、前回はっばがかかったように1万人とか市民の1割ということは言えないですけれども、頑張るといふことだけは言えると思っています。

○原田委員長 ありがとうございます。

○原委員 今のアニマルファミリー制度の件について一つと、そのほかあるのですが、まずはファミリー制度について伺います。

今回、募集のパンフレットを見させていただいたのですけれども、具体的にお金を出しまして、4月からスタートして情報が入ってくるというのは、ニュースレターは年にどれぐらいの回数が出るものなのかという具体性がないものですから、PRするにしても、こ

んな情報がもらえるよ、すぐに入ってくるよということを伝えにくくて、そこの魅力が少し薄いというのを感じました。実際に、その辺はどうなのでしょう。

○金澤園長 まず、メールは、アドレスがある方については最低月1回出そうと考えています。ニュースレターは大体四半期がめどになると思います。ですから、3カ月に1回ぐらいです。しかし、それはうちの職員のどれぐらいの負担になるか、やってみなければ見当がつかないのです。ですから、いきなりごそっとやるわけにはいかないので、この五つから始めたという経過です。一番問題なのはそこなのです。

今、4人がブログに参加していますが、結構時間がかかっています。時々ブログに書いてありますけれども、2時間かかって書いたものが消えたと書いている人がいます。そういうこともあるので、今、本当にどういう方向がいいのかをこの中で検証したいと思っています。原委員の言われたように、何回という約束を先に立てるとするのはいいことだと思いますが、今は書けない状態です。

○原委員 それから、もう一つ質問があるのですが、一番初めの輪の中での説明で全体のつながりはわかったのですが、一つの例として、ビオトープの建設に当たっては、こういう形で20年度も進めていきますという計画はわかりますし、「わたしの動物園」という考え方はわかるのですが、例えばそれを結びつけるような発想とか、新年度の中でどういうことを考えているというのはありますか。例えば、ビオトープのつくりは全部を企業に任せて園の中でつくってしまうのか、そこに市民が入っていく余地があるのか。

○金澤園長 ビオトープは、既に市民会議ができています。今現在、先ほど絵を出しましたが、あの絵自体も参加者がかいているのです。それをイメージしてつくっています。ですから、今後運営していくときも市民運営にしようと思っています。

今、ビオトープ協議会というものを立ち上げて、去年の早い段階から動いていて、大学、専門学校、高校、ザリガニ好きとかそういう方が集まってやっています。ですから、今も市民で動いています。ですから、当然、動物園側として責任者はつけますが、実際の運営は市民がやっていきます。ですから、今度の維持管理と言うと変ですが、そういったところも市民がやれるようにしていきます。

○原委員 今後、これを市民の皆さんに出したときに、そのときに初めて知る市民側から見るときに、私たちが自分たちの動物園としてそこに参加していけるのだろうかという考え方が出てくると思うのですが、そういう参加のアプローチの仕方はできるのでしょうか。

○金澤園長 まだ実際に建設が終わっていないので、建設が終わるまでにはその辺の考え方を整理します。

○原委員 建設の中に、規模的にどの部分を建設として言っているのかわかりませんが、ビオトープと一言と言っても年数のかかるものですね。つくっていくものというのは、一つ一つの自然を戻していくという……。

○鈴木課長 私の方からご説明しますが、来年度につくるものは、基盤造成というか、今の地形を劇的にいじって大工事をして云々というものではないのですけれども、今の地形

を生かして、この場所にはどういう植物相なり動物がすむべきなのか、すんでいくべきなのかということ想定しながらやっていくのですけれども、向こう10年間ぐらいは、だんだんに移りかわりながら種類がふえていくだろうということで、完成ということはないのでしようけれども、そういうところを目指しております。来年、一番大きな工事をやって、その工事をやる一方では、そういうことに興味を持っておられる市民の人たちを集めて、何度か研修のようなことをして、その中から、工事が終わった以降にビオトープを管理運営していけるような人たちを養成していくと。そして、今ある解説ボランティアの皆さんのような形である程度集積して、その人たちがビオトープの面倒を見ていくというイメージの仕組みをつくらうと思っております。ことしの春ぐらいから、そういう募集というか、研修のようなことをやれるように考えています。恐らく、4月になったら、公募のような形で外に発信して、募集をかけるということになると思います。

○原委員 私が一つ感じたのは、私の動物園という概念の中で、市民が、大人であろうが、子どもであろうが、今の実行委員というだけではなくて、木一つ植える手伝いをできるようなところに一般市民が参加することによって、自分たちがつくっていく円山動物園というものが具体的に見えてくるような気がするのです、そういうような考え方があるのかどうかということです。それは、みんなで作っていく動物園では一番具体化しやすいものではないのかなという気がしたのです。

今、鈴木課長がおっしゃったような、今後、その後の整備なり何なり運営していく面ということとは十分わかったのですが、その手がかりになるようなところで、市民が参加していくというのは、PRするというだけでもいいのではないかと思ったものですから、もし、その辺の考慮があるのであれば組み入れていってほしいという気持ちでいます。

○鈴木課長 例えば、ビオトープについても、この間は公募でやっているのです。設計に直接携わっている市民の方は、そういうことの専門家の学校の先生などが多いのですが、その協議会のメンバーだけで決めたのではなくて、あのときは「秘密の森を見てみませんか」ということで新聞記事にしてもらって、興味のある一般の市民にオープンにして集めたのですけれども、実は、定員40名のところ、ひとたまりもなくわっと殺到いたしましたして、80人で切ったのですが、それも3日ほどの間で埋まってしまったのです。ですから、一般の方にオープンにした形で意見を集めたり、参加型で植樹をやるということは、ビオトープの管理運営の中では今後起きてくると思います。

○金澤園長 緑化については、ビオトープに限らず、動物園全体の中で、先ほど追加したように、きちんと入れてあります。今後やっていく中で、植樹のようなものはまさに必要なのです。そのときに、今言われたような、木1本植樹することで「わたしの動物園」に近づく気持ちが出てくるのであれば、それはそれでやっていこうと。しかも、今、実際にいろいろな木自体はいろいろな企業からの寄附で植樹されています。また、ここの動物園自体にもいろいろな木の種類がありますから、そういった整理をしながら、どこに何を植えるか。それから、一番嫌らしいのは、今植えてしまって移植しなければならないという

のが一番困るのです。ですから、もう少し施設の配置の見通しが立った時点ではきちんとやろうと思っています。そして、円山そのものと連担するような緑化をしたいと思っています。それを、今、園内緑化ということで表現しています。

ただ、ここには植樹ということは書いてありませんが、検討の中でそういう議論も出ています。

○原田委員長 よろしいでしょうか。

○原委員 はい。

○鈴木委員 既にお考えのことだと思うので、素朴な質問になりますけれども、これからいろいろな施設ができていく中で、先ほど燃料のお話がありましたけれども、暖房や冷房といったものに対して、石油を使わないこと、以前にソーラーシステムとかそういうお話が少しあったかと思うのですが、そういうところのポリシーというか、先ほどのユニバーサルデザインのルール化というのと同じことなのかもしれませんけれども、そういう柱というか、そういうものがきちんと立っているのかどうかということが1点です。

もう一つは、先ほどのご説明で、環境サミット、洞爺湖サミットに対して、一つ日口というお話がありましたが、ほかにもっとお考えになった方がいいのではないかという気がするのです。もっとないのかなと思うのですが、何かあったら教えていただきたいです。

○金澤園長 まず、燃料の方は、今、既に検討に入っているのですが、環境局として次世代エコパーク構想、エネルギーパークということで、化石燃料ではない新エネルギーの開発というか、そういった取り組みをしております。その中で、動物園も検討をしています。ことし、動物園は、今ある検討を受けて、動物が現実的にどうできるかという検討をやる予定なのです。

その中には、今言われたソーラーもあり、風力は難しいかなという気はしますが、いろいろなものを検討していくことになります。それから、先ほども燃料とは別ですが、資源という意味では水が大きいんですね。上下水道で8,000万円から9,000万円ありますから、そういった水も循環型に変えていく、それから、熱エネルギーもできれば循環型にしたい、こんなものも考えながらやっています。化石燃料がゼロというのは難しいかもしれないけれども、例えば、同じ化石でも、今は原油を使うと高いので、逆に天然ガスの方がいいのかなと。そんな検討も含めてやって、20年度の中で、先ほど、いろいろな配置が決まりましたし、大体規模が見えるので、それに見合うエネルギーというか、暖房装置は何がいいかという検討をやろうと思っています。その中では出てくると思います。

それから、サミットの関係としては、先ほどロシアの話をしました。実は、同じ組み立てなのですけれども、インドネシア展も、自然破壊などといった意味での環境問題がありますので、それも一緒にセットにしよう、それで特別展ということです。ただ、限られた人数の中でやると、正直に言って、あれもこれも抱えられないので、20年度前半の10月ぐらいまでは、我々はこれ以上仕事を入れたくないと思うぐらい予定が入っているのですから、そもそも限界に近いと。

ただ、決して忘れていたわけではないのは、そういった視点を入れるし、環境プログラムということで、すべてにおいて、今、どきどき体験という形でお客さんから見るとショーのような見方をされていますが、そういう中にも環境問題には必ず触れています。そして、今、触れていないものについては強化しようという取り組みをしています。そういう中で、これから環境イベントではなくて、環境の教育の視点でもしっかり入れたものにしていきたいと思っています。そうすることで、円山動物園は環境教育に力を入れますと、今は環境教育の拠点になりますと言っているのですから、そこにはしっかりしたものをに入れていきたいと考えています。

○中村環境局理事 確かにおっしゃるように、動物園で、日口だけではなくてももう少し広げてやってはどうかということもあると思います。動物園の中でも、どこまでを射程範囲に置いてやるかということも中で議論してきました。片や、6月にモエレ沼公園でこども環境サミット札幌というものをやります。それは、動物に限らず、広く地球環境問題について議論をして、洞爺湖へのメッセージを送ればということで、8カ国、100名程度の子どもの中心としたサミットですが、それにくっつくような形といいますか、その一環として、動物園のオオワシ会なり放鳥会なりシンポジウムを開こうと考えています。広げれば際限がないと思うのですけれども、このサミット自体も急転直下決まった話ですので、我々も範囲をどこまでというのは悩んだところで、予算の範囲でどこまでできるか、実態ではそういう側面があることをご理解いただきたいと思います。

○原田委員長 ありがとうございます。

今のお話で、燃料費が高くなったということで経営的にはかなり負担がふえた、計画どおりに進まない根元の一つだなというお話がありましたけれども、私は、燃料の問題というのは、必ずしも経営問題だけのことでなくて、これこそ環境問題であって、先ほどお話のあった新エネルギーパークですか、この計画は多分、そのまま進行するんですね。動物園をモデルとしてというか、その新しい構想計画が推進されていきます。これは、もう公開されていることですね。そういう中で、エネルギーの効率的な利用、それから、例えば、暖房用にわかしのお湯であれば、そのお湯を別の用途に再利用していくということで、一回使ったエネルギーをとことん活用していくという考えのもとに、やはり動物園は乗っかっていかないと、ここで全部負担して、ここのためだけにエネルギーを使ったということになると、大変なコスト負担になるのではないかと思うのです。そういう意味でも、暖房に対していろいろな燃料を活用するということが、片方ではCO₂の増加につながる。一方では、この中にも書いてあるように、動物園は植樹を進めていくということを主張しているわけで、植樹によってCO₂を吸収していくと。そのようなサーキュレーションのシステムを、動物園としては胸を張って強調して、今回などのサミットへ向けての会議があれば、オオワシだけというテーマではなくて、やはり環境問題として温暖化に対して、実は動物園というのはこれだけの総合的な努力をしているということアピールする必要があるのではないかと私は思うのです。作業が大変ということかもしれませんが、

その辺は、動物園を取り巻くいろいろなブレイクがいらっしゃるはずなわけで、そういう人たちの輪の中で、ぜひともそういうアピールをしていただきたいと思います。多分、鈴木委員の言いたいのはそういうことではないかと思えます。

○鈴木委員　そうです。

○金澤園長　そういう意味では、基本構想とか基本計画とか、内部的にはCO₂換算で出せないかという議論をしています。CO₂で評価すると、支出ベースで30%カットできなくても、それをCO₂換算をして評価するとうなんだよということがもし出せれば、合理的というか、もっとPRの仕方があるのかなと思っています。今、それが難しく、本当は計画の段階でこれでCO₂を何トン削減できましたと書くことができればいいのですけれども、ちょっとまだ書けないのです。できればそういう計算もしたいというのは、これをつくっているときから議論として出ていました。

○原田委員長　ほかにご意見はございますか。今のことに関連してでも結構です。

○服部副委員長　今のことに関連して、CO₂の削減を検討していかなければならないことは間違いないと思うのですけれども、入場者数がふえていけばいくほどCO₂がまさに排出されていくというアンバランスな部分があるわけですが、そういうところに対する具体的な対応、対策をきちんと検討していくべきだろうと思います。

もう一つは、ごみ対策という問題があります。やはり、入場者数がふえればふえるほどごみが集積されるわけですから、この辺の対策をどうしていくのか、これにかかる費用というものも相当なものになるわけです。そういったことを、今回のサミットに関連してもう少しアピールするような具体的な対策を発信していければいいのではないかと思うのですけれども、いかがですか。

○金澤園長　ごみについては、皆さんの一般家庭と違って、動物園の場合は事業系のごみということで処理しています。ですから、事業系というのは分別が余りきちんとされないのです。ただ、我々動物園としては、来園者は家庭のようにきちっと分けてくれませんから、ごみ箱にすぽんと入ってしまいます。それを、委託の中で、完全に分別して処理しています。もう一方では、ごみ箱そのものを、もう少しごみの入れやすいと言ったら変だけれども、見た瞬間に最低3分別ぐらい、燃えるごみ、プラスチック、瓶・缶ぐらいにしたいと思っています。そこで、今、とある団体にごみ箱を100個ぐらいプレゼントしてくれと交渉している最中です。そうすると、少しずつイメージがつくっていくかなと考えています。やはり、子どもたちにとって、自分の家庭や学校でやっていることが、ここに来たとき違う分別になるというのは困るんですね。ですから、最低、できれば合わせたいと思っています。それを思っていて、今、ごみ箱をプレゼントしてもらおうということをお願いしています。全部まとまってくると600万円ぐらいの規模になってしまうのですが、そんなことに取り組んでいる最中です。可能性はすごく高いです。いいよと言ってくれていますから、そういうことをやりながら、分別はそうやって整理してごみは処理したいと思っています。

あと、サミットに関してはいろいろな課題があって、常々取り組んでいく姿というのは大事なところなんです。でも、毎日やっていることは、なかなかアピールしづらいのです。初めてやるようなものはすごく売り込みしやすいのです。そういう意味で、環境教育をしっかりとやって、その子どもたちが、確かに、先ほど服部委員が言われたように、人が動けばCO₂は多く出るわけですから、そこを逆に、環境問題ということで、環境教育を子どもたちやお客さんに持って帰っていただけるようにしていけば、少しは免責されるかなと思いつつ取り組んでいます。これから環境プログラムの中はそういうふうにしっかり組み立てをしている真っ最中なんです。

○原田委員長 生物多様性に対する取り組みというのは、まさに私は環境問題に対する取り組みだと思います。そういうこととほとんどイコールだと考えてよろしいと思います。

ほかに何かございますか。

○林委員 僕は放送人の会として参加させていただいていますが、マスコミという伝える側からすると、ここで固まった基本計画、新聞でも我々もどういふ発表の仕方をするか、記者会見をされるか、この80項目を見て、個々には非常にいいのですが、これをマスコミ人として伝えようとする、まず、2008年で16万人ふやさなければならないというのは非常に大事な発表だと思うのです。もちろん、新しい施設ができるということは大きな目玉でありましょうし、そこを発信していくということだと思うのですけれども、これだけすばらしい連携した円山メソッドであり、円山らしいものをつくったのですから、三つぐらいで言えるまとめ方ができないものかと思うのです。つまり、そうしないと人には伝えられないのです。

私は、個人的に言うと、喫茶店でコーヒーを飲みながら、円山は変わったよというふうに行ったときに、次に何を言うかということ常々考えるのです。そうすると、オオカミの森ができるらしいよ、それから次を言うと、新しい施設ができるらしいんだけどということと、LOHASナイトがあるんだよと、大体、三つも四つも言われると次の話題に変わるのです。深くならないのです。深くならないということは、基本的には人はそこから、リーチの長さという言葉がありますが、円山に行こうという気持ちにはならないのです。やはり、この基本計画は80あります、具体的にお知りになりたい方は円山動物園に来てもらうというのはあると思うのですけれども、三つにまとめたら2008年はこうなのだ、2009年は三つにまとめたらこうなのだということを、ぜひまとめてほしいのです。

例えば、今の環境の問題に関して言うならば、まだできていないからこそ、円山動物園は環境の問題に取り組むんだと言っていいはずだと思うのです。キャッチとしては、2008年から2011年にかけて施設をつくる際に、環境という問題を頭から考えて我々はやると。原油の高騰を含めて、いろいろと内外の問題もあるし、そういう問題に対して総合的に考えるのだということは、今、この会議を聞くと、ここまでは言えるはずなんです。なぜかという、始まっていないからです。環境でくくっていくと、この80項目の中に幾つかがぐわっと入ってくるものがある、では、具体的には何をやるのかということ、それ

それぞれあるわけです。

どうもキャッチが下手という、素人だからいいのですけれども、伝える側で考えると、これは個々でたくさんやっている。僕も、最近、動物園に来て思うことは、動物園に来ないとわからないことが多いのです。これは困るんです。林さん、動物園が好きだからねと言われても困るのです。要するに、市民が動物園にかかわるということは、ある意味で環境にかかわるということであったり、あるいは市民活動にかかわるということであったりというような方向づけを、ぜひ2008年に発表される前に、三つか四つの言葉でふわっとあらわせばという感じがするのです。

この基本計画の図を三つに分けるのはなかなか難しいかもしれませんが、連携と書いてあるのは、全部連携しているのです。資料を見たときに、全部やっているじゃないかという感じになってしまうのです。園長も、説明しながら、それもやっているんだ、それは考えていると言われるのだけれども、一つの方向に向けられるようなキャッチを、ぜひお願いしたいと思うのです。そうすると、僕ら委員としても説明しやすいし、問題点を細かくフォーカスできるのではないかと思うのです。

○原田委員長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○金澤園長 大変耳の痛い話をお聞きしました。ちょっと考えてみます。

我々の議論の中でいつも出ている話なのですが、何を伝えたいかというのは何とかコンパクトにしようと思っているのですが、ちょっと難しいところです。今まで、そういう出し方になれていないということも一つはありますが、検討してやってみたいと思います。まさに言われたとおりだと思います。

○原田委員長 確かに、基本構想のところで「わたしの動物園」という視点からの行動というふうに書いてありますが、つまり、何なのかということが、非常に特徴的な図の中に一言大きく出ていないのです。中を読むと書いてあるわけです。28ページですね。例えば、アニマルファミリー制度がこれを代表するところになると思いますけれども、先ほど私の動物園を私たちがつくるとおっしゃいましたね。そういうキャッチフレーズでもいいと思うのです。私たちがつくると山動物園です。同じように、私の動物がいる動物園に会いに行くというようなことが書いてあるわけです。まさに、それがキャッチフレーズではないかと思うのです。

環境問題について言えば、生物多様性という視点の確保に向けた行動というのは、多分、聞いても誰もわからないと思います。生物多様性というのは専門用語ですから、いっぱい生物はいるよね、それで何なのというふうにするだけで、構想の段階ではその解説編の中にありますから、それを読んでいただかないとわかりませんということでもいいわけですが、具体的にアクションを起こすということで基本計画がつくられていますし、こういう行動を起こしますと主張しているわけですから、そのときに、少し広めに、先ほどご質問があったような内容も含めて、生物のための環境モデルとしての動物園とか、これで

もわからないかもしれないですけども、それってどうなったのかということ、これはホームページ等で、こういうサイクルとしての始まりがあつてつくられて、例えばCO₂がこういうふうに循環して、このようにそれが阻止されていくんだ、減少していくんだという仕組みが見せられればわかりやすいのではないかなという感じがするのです。動物園の中でも、多分、エネルギーシステムについてもこれから大きな変更があり、そのうちシステムのでき上がっていくのではないかと思いますけれども、まさにこういう構想で動物園のエネルギーシステムを考えていきたい、それは環境問題として主張につなげて意思表示ができていくのではないかと思うのです。

もう一つ残っていましたね。

三つ目の構想の自然豊かな円山エリアの中核施設としてのというあたりも、このエリアの中核としてどういう機能を今後持たせようとしているのか。今までは動物園と円山公園が分離していたけれども、それを一気に広く含めた、それから球場もあって、スポーツあるいは大倉山シャンツェも含めて、それから円山川というようなところの再生も図って、エリア全体として円山動物園が機能を拡張していくといったイメージを、まだ言葉がやわらかくなっておりませんが、言ってもいいのではないかと思います。このとおり、構想の言葉は基本計画ではこのように書き直すぐらいの、もう少しわかりやすい言葉にしていく必要があると思います。私も言葉は余りうまくないのですけれども、キャッチフレーズをつくり変えてしまってもいいのではないかと思います。構想は構想として、それを受け継いだ基本計画は、中学生にも小学生にもわかるような言葉で記述をし直すぐらいのことが必要なのではないかと思ひます。私も林委員がおっしゃるとおりだと思います。

○服部副委員長 私、林委員のおっしゃるとおり、動物園には来ていないのですけれども、動物園を注視していると。関心を持っていることは事実です。どんなふうになるのだろうかということ期待を寄せていることは間違いないです。そういう意味では、正しいメッセージ、わかりやすいメッセージを伝えていくということは大変大事なことであつて、それはマスを通して伝えていくことにもなるわけですから、そういった意味では、林委員のおっしゃることは本当に大事なことだろうと思ひますし、議長の方から話があつたように、この基本計画が打ち出されると皆さんがこれを目にするわけですから、そういったときに何がどうなんだろうか、これを全部読み上げて勉強する人はほとんどいないわけですから、もっとわかりやすい具体性のあるメッセージをこの中に書き込んでいくということが大変大事なことではなからうかと思ひます。変われば入場者数がふえることは間違いないわけですから、ふやすための基本計画であるということ考えていくと、メッセージの伝え方というのはもっと真剣に検討していく必要があると思ひます。ぜひ、それを進めたいということをお私の方からも申し上げたいと思ひます。

○須藤委員 私も同様です。

幼稚園のお友達のお母さんたちに、今、動物園はこんなに変わりつつあつて、子どもたちはこんなふう楽しめるんだよということを言っていく中で、簡潔に三つぐらいに分か

れて言えたら、皆さん、もっと具体的にイメージができやすいのではないかと思います。

やはり、子どもが来ることが多いと思いますし、うちの息子が通っている幼稚園でも、6月あたりに幼稚園でこちらの方に来ますので、そのときに環境教育を、子どもが円山動物園でしか学べないことを何か持って帰ることができるようにまとめてほしいです。多分、これを見せられても、うーん、よくわからないなで、忙しいお母さんたちはこんなに言われても一体何なのか、動物園は何が売りなんだろうとなってしまうと思うので、まとまっているとありがたいと思います。私も宣伝しやすいです。

○林委員 言い出しっぺで何なのですが、これはシナリオを書くときに、大箱、中箱、小箱というものがあるのですけれども、小箱はできているのです。具体的に何をやってどうするかというものはできているのです。ただ、シナリオを書くときに、大箱というものがあって、大体、大箱で企画が通らないと、おもしろくないと、シナリオを書く前にやめようという話になるのです。小箱ができていますから、非常に簡単なわけです。自信を持っていいわけです。つまり、大箱を持って書いて、実際に具体的に書いていくと、どんどん具体性が乏しくなってくるのです。それは、皆さんが2年がかりで委員長もおやりになっていて積み上げてきたものを、これ一つ一つを見ると、極めて自信を持たれていいと思うのです。そのうち、何をどうスケジュール的にやるかということですからね。ただ、大箱が見えないと伝えるにくいということと、例えば、先ほど環境のことでも、大胆に言うのと、どうしても温度が必要な動物には暖房が必要だけれども、見に来る人のために暖かくなどしていないということを言えるような施設になってほしいと思うのです。今、それが許されると思うのです。昔だと、何これ、こんなに寒くてとか、何でこんなんでと言うけれども、今は逆に、むだに暑かったりすると、そういう環境教育というか、それが一般市民にできてきていると思うのです。ですから、前とは全然違う施設のつくり方や、前とは違うお客さんへのアプローチの仕方をしていい時代に入ってきたと思います。いい意味です。それ自体が環境教育なのだ。ここに来たときに、そのことをもう一度知るためには、動物と共存しているのだ、だからこうなのだ。ただ、熱帯動物だけは北海道と同じになれとは言えないでしょうけれども、ゾウの花子が雪の中に出てきたときは僕もびっくりしましたが、そういう感動を札幌では味わうことができるわけです。今、ゾウはいませんけれども、キリンもそうです。そういう意味では、札幌にしかないことができるという意味合いの施設のつくり方というのは、当然、細かくは考えられているのですが、それをどうアピールするかとか、どう色づけしていくということかなと思っています。

ぜひ、お手伝いをします。これを言ってしまったら私もやらなければいけないので、先ほどから静かにしていようかなと思ったのですけれどもね。済みません。

○原田委員長 その言葉を待っておりました。

○服部副委員長 具体的に、例えばCO₂の削減にしても難しいという園長のコメントがありましたけれども、やはり市民は各家庭からでもCO₂を削減したい、その意識で教育がなされてきているわけです。各事業所においてもそうなのでしょうけれども、社会全体が

そういう形になってきている状況下で、まさに動物園としてCO₂の削減を、何トンの削減を目指す、あるいは札幌市全体でこんな削減を目指すのだというアピールを、大ぶろしきを広げるわけではないのですけれども、やはり具体的なメッセージを伝えていくということは大変大事だろうと思います。

○原委員 市民の目線からのメッセージの出し方をすると、具体的にわかりやすいのではないかという気がするのです。動物園に参加する市民側から見て、動物園に行くところいうことができる、こういう形に変わろうとしている、こういうことがあるんだよという市民目線でのメッセージの出し方はわかりやすいと思いませんか。そういうのはどうでしょうか。一つの物の見方としての方向性の一つかなと思うのです。すべてがそれにおさまるとは言えませんが、先ほど言っていたCO₂のことも、動物園側ではごみ箱を用意してはなくて、今後は自分たちで持ち帰ろうというという目線でのメッセージの出し方とか、市民側はこういうふうにして動物園とかかわってこうねというような目線と言うのでしょうか、どうでしょうかね。

○服部副委員長 それも、まさに教育なのです。ですから、ごみ箱を設置するのではなくて、ごみ箱をなくすと。これは明確な環境教育に該当するだろうと思うのです。ですから、私は、ごみの減量作戦というのは動物園側が先頭を切ってやっていくべきだろうと思うのです。ごみ箱を設置すればするほどごみはふえていくわけですから、そういう意味ではCO₂を排出する原因をつくっていくわけです。

円山動物園の売店でも、できるだけごみの出ないような販売方法のシステムをつくるのか、その中にいろいろなことを合わせた考え方ができてるのだと思うのです。まさに私は、ごみ箱ゼロ運動をやっていった方が動物園らしいメッセージかなと思うのです。

○井上委員 やはり、ごみについては私も同じようなことを思ったのですけれども、今、ビクターセンターではごみ箱はないというのがほぼスタンダードになりつつあるので、動物園でも、ごみを置くということが前提ではなくて、自分で出したごみは自分で持ち帰りましょうというのが当たり前という方向にしていってもいいのかなと思いました。

先ほどおっしゃったように、もう少しわかりやすい言葉で基本計画を出しましょうというのは私も同感ですけれども、大きな柱として、そういう環境教育というのは当然あるべきだと思うのですが、やはり動物園にいらっしゃる大半の方は、私たちのように、すごく動物が好きでという人ばかりではないので、余りマニアックなものが表に出過ぎると、来ようかなという感じにはなかなかならないので、その辺、私もどういふふうに表示したらいいのかというのは難しいと思うのですが、やはり、一般人が来てみたいと思うような方向性を考えた方がいいのではないかと思います。

○原田委員長 ありがとうございます。

きょうは3時までの予定でございますが、ほかに、まだご意見を言ってらっしゃらない方、おっしゃりたい方はどうぞ。

○須藤委員 無理な要望かと思うのですけれども、幾つか新しい建物の設計図を見ると、

1階建てというか、2階建てのものは見受けられないのですが、バリアフリーという点でオオカミとエゾシカのところでスロープをつくるというところまでが、お金の面でも、構造というか、現地の面積の面でもそれがぎりぎりだというお話を園長先生から伺ったのですけれども、ベビーカーを押す元気なお母さんたちはいいと思うのです。ただ、高齢者の方とか、つえをつきながらやってくる方とか、車いすに乗っていらっしゃる方というのは、スロープ一つも結構大変なときもあると思うのです。ですから、できればエレベーターの設置を願いたいのです。

例えば、サル山のところのレストハウスも、上からと下からは入れますけれども、中は階段ですね。では、上に行きたいと思ったら、一度回っていかないと上から入れないという構造になっているのです。そうすると、園内は坂道ですし、幾らなれているといっても車いすで上がっていくのは大変だと思います。

もし、お金の面で大変だということであれば、例えばベビーカーの会社とか、車いすの会社とか、高齢者向けの福祉関係の会社に寄附を募って設置をして、寄附してくださった方の会社のロゴをエレベーターに張って、私たちは皆さんが円山動物園に来られるように協力していますというものをを出してもいいのではないかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

○原田委員長 いかがでしょうか。

○金澤園長 今、返事をするのですか。

○中村環境局理事 まともに反論するわけではないですけれども、CO₂の削減と言っているときにエレベーターは——3階、4階建ての建物を動物園で整備するという考えももちろんないし、そういうことはできないと思うのです。まさしく、バリアフリーの観点から、そういうものが時代の要請になっていますし、普及しているのは事実ですけれども……。

○須藤委員 確かに、坂道の方がCO₂の排出にはならないですけれども……。

○中村環境局理事 ですから、ハード整備ということを先に考えるのか、もう少しボランティア活動も含めたソフト面での支援で入園者の方々への対応をした方がいいのか、そこは慎重に考えた方がいいのだろうと私は思っています。

○鈴木委員 先ほどお話の中で、園内の交通整備ということがあったかと思うのです。スロープが、上っていくのも大変で、下るのも大変なのかもしれませんが、入れるところが上るのではなくて下るという格好になればいいとか、そういう工夫をする方がいいと思います。エレベーターを考えるよりも、もっと頭を使って、もっと知恵を出してという視点をぜひ持っていただきたいと思います。

○須藤委員 できればエレベーターを使わないで済む展示方法がベストですし、今回出されている資料にある新しくつくられる建物に関してはその必要性がないというふうに見受けられるのですけれども、前回の第2回目にあったオオカミとエゾシカの面に関して、あとは、今あるサル山のレストハウスとかチンパンジー館等のスロープはそのまま使っていくわけですね。その辺はどうなのかなと思ったのです。CO₂のことを考えると、電気を使

うとかエネルギーを使うというのは反対のことになってしまうのですけれども、障がい者の方とか高齢者の方も、自分の足で自分の思うように楽しみたいという思いがあると思うので、それを支援することも大事だと思います。ベビーカーを押す分については、母親の足が悪いわけでもありませんし、元気があるからここに来るのであって、病気だったり疲れ果てて来るといったことはないわけですから、押すのは全然構わないと思います。ただ、私は車いすの経験があるわけではないのですが、私の亡くなってしまった祖母は足が悪かったのです。それでも、動物が好きだったので、つえをつきながら休み休み見ていたのですが、その姿を見ると、エレベーターはあった方がいいかなと思ったのです。祖母は、海外のエレベーターのついでにあるような動物園にも連れて行っているのですが、やはり、そういうところはすごく楽しかったのも、もし既存のもので使っていくのであれば、スロープ以外にも何かできたらいいかなと思いました。こんなふうにつくりかえたらいいよという提案はできないのですけれども、自分の経験では、エレベーターはあった方がいいかなと思いました。ただ、エネルギーの面では余りよくないことはわかります。

○中村環境局理事 必ずしもCO₂を出すからだめということを申し上げているのではなくて、限りある施設整備の財源の中で、どういうふうに、何を優先してやっていくかということだと思います。もし、それが100%とは言えないにしても、ソフトである程度、障がいのある方や高齢者の方に対して、園として人的な支援も含めてどこまでできるかというのをまず最初に考える方がいいのではないかと考えているのです。ただ、それでもなおかつ足りないところがあるとすれば、そこにお金を投入して施設整備を選択せざるを得ないということもあると思います。今ははっきり言えなくて申しわけないですが、そういう視点は大事に持っていきたいと思っています。

○須藤委員 これから高齢者もふえていきますし、そういう方が子どものころに見たなどという思いでいらっしゃるかもしれませんし、お孫さんを連れてということもあると思うので、そういう方も十分楽しめるようにしてほしいと思います。ここに ترام ができるといっても書いてあったので、それは非常にうれしいなと思ったのですけれども、 ترام だけではなくて、建物に関してもあったらありがたいと思いました。

もう一つ、トイレの面ですが、レストハウスとつくところにはトイレがあった方が便利かなと思いました。天気がよければいいですし、トイレを我慢して行けるような年齢の子だったら、外にあるからトイレに行きなさいと行って行けるのですけれども、間に合わないというような人たちがますよね。高齢者の方も、余り我慢できませんし、小さい子も我慢ができないので、レストハウスでゆっくりしているときに中にあればありがたいと思います。雨が降っていたり雪が降っていたりするときに、着せていかなければならないという、もう間に合わなかったということがあるので、レストハウスと名のつくところにおトイレの設置があったらうれしいです。

○服部副委員長 私の方からもつけ加えさせていただきます。

冒頭に、バリアフリーということでご質問させていただいたのですけれども、これまで

にも参考意見を聴取しておられて、今後も参考意見を聴取するという中で、障がい者の方々との団体との連携をさらに強化して、いわゆる障がい者の方々の視点からどうあるべきかということ謙虚に受けとめていくということは大変大事だろうと思います。それをおやりになっておられるということですので、エレベーターの問題は、その是非云々ということではなくて、多方面からの考え方を取り入れながらぜひ検討してもらったらいかがかなというふうに、私からもつけ加えさせていただきます。

○原田委員長 ありがとうございます。

私も最後に一言申し上げたいと思います。

このアニマルファミリー募集中ということですが、そのサービスをどうするかということが大変なのだという話をお聞きしました。例えば、リッキーを家族の一員にした家族はお金を払うわけです。もう家族にしてしまったつもりになりますので、いつも気にすると思うのです。家で、あの子はどうしているのかしら、うちの子はどうしているのと、子どもは必ずそういう質問をします。そのときに、できたら家でリッキーの姿が見えるようなサービスを、すぐには言いませんが、できるように努力をしていく必要があると思います。そうしないと、ファミリーになっても動物が見えないじゃないか、本当に家族なのということになりかねないと思うのです。

この前、経済産業省のちょっとした費用で、サービス産業としての動物園の展示システムに関する提案を、大学を中心に外部機関と連携をしたコンソーシアムをつくって最終提案をしたのです。そこでのいろいろなアンケートの結果を見ても、情報系ネットワークを活用して、家で、つまり動物園に行く前にも動物園を楽しんで、動物園に行ってからますますフェース・ツー・フェースで楽しんで、動物園から帰った後も、あの子は元気だったねとか、あんなことをしておもしろかったねというふうにその画像を見ながら話題にできると。そのときに、ホームページ上で、リッキーにかかわるブログとか、弟路郎にかかわるブログとか、ココにかかわるブログとか、ファミリーがファミリー同士で、園の外でソサエティーをつくっていけるような仕組みづくりをしていくと、その仲間がどんどんふえていくと私は思うのです。動物園に来る前にも、来た後にも、動物園の外側で動物を愛する人たちのソサエティーが構成されていく、そんなようなシステムがこれからの動物園には必要で、これからIT技術を最大限活用してやっていく世界が待っているのではないかと考えているわけです。動物園としても、そういう情報化技術の導入と、それによるサービスの提供、それによるソサエティーの構築、そういう形で支援の輪を広げていくことは大いに可能だと思います。ですから、施設ばかりではなく、イベントの拡張ばかりではなく、動物園を取り巻く人たちの輪が広がり、その人々が作り出すその人たち同士の楽しみというものがあると、これはすごい動物園になるなというふうに私は思っています。

よろしくをお願いします。

時間が2分ほど過ぎましたけれども、これは言うておかなければということがなければこれで終了したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○原田委員長 ありがとうございます。

土曜日ということで、お休みのところをお集まりいただきまして、まことにありがとうございました。

これをもって今年度の市民動物園会議を終了したいと思います。

この後については、動物園の方にゆだねたいと思います。

○金澤園長 ありがとうございます。

いろいろ宿題もいただきましたので、これから実施していくのかどうかをしっかりと検討しながら進めていきたいと思っております。

きょうは、今年度最後の会議になりますし、私どもの中村理事が来ておりますので、ごあいさつさせていただきます。

○中村環境局理事 きょうも活発なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

私も、動物園だけではなくて、まさしくきょうは植樹のお話も出ましたけれども、みどりの推進部というところを担当しております、ことしは、洞爺湖サミット、あるいは環境首都札幌を宣言する年に何ができるかということ、職員は知恵を絞ってやっています。きょうは、メーンが基本計画についてのソフト、ハード両面にわたる打ち出しということでご説明させていただきましたけれども、我々も、どういうメッセージを発信していくかということは内々に感じていたところなんです。例えば、基本計画も、ただの計画ということではなくて、その下に副題のようなものを置いて何を目指す計画なのかというメッセージを発信していく方法はあると思っております。その辺は工夫をさせていただきたいと思っております。大きく言えば、動物園は環境教育の拠点ですので、きょういただきました環境という大きな視点、揺るがない視点ですが、それをどういうふうに伝えていくか、きょうご意見をいただいたことを踏まえて打ち出し方を工夫させていただきたいと思っております。

ありがとうございます。

3. 閉 会

○金澤園長 それでは、きょうはこれで終わらせていただきます。

次回は大体6月ごろになると思います。再度、日程調整させていただきます。

本日は、本当にどうもありがとうございました。

以 上